

学校コミュニティの危機への対応

カウンセリングセンターとして
 (福岡県臨床心理士会の学校緊急支援モデルを参考に)

危機をもたらす出来事

- 学生の自殺
- 学校の管理責任下で生じた事件・事故による学生の死傷
- 学校の管理外での事故による学生の死傷
- 学生による殺傷事件
- 教職員の不祥事の発覚
- 教職員の突然の死

学生の自殺

学校コミュニティの混乱をもたらす要因	構成員の死・喪失	構成員の強い恐怖感	構成員の自責感	外部からの責任追及
自殺現場の目撃	○	○	△	
原因が明確: 学内の要因	○		○	○
原因が明確: 学外の要因	○		△	
原因が不明	○		△	△

(福岡県臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版)

学校の管理責任下の事故

学校コミュニティの混乱をもたらす要因	構成員の死・喪失	構成員の強い恐怖感	構成員の自責感	外部からの責任追及
授業中、サークル活動中	○		○	○
校外学習中の事件・事故	○	△	○	○
外部からの侵入者による事件	○	○	○	○

(福岡県臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版)

校外で生じた事故による死

学校コミュニティの混乱をもたらす要因	構成員の死・喪失	構成員の強い恐怖感	構成員の自責感	外部からの責任追及
事故現場の目撃	○	○		
行動をともにした構成員	○	○	○	

(福岡県臨床臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版)

衝撃的な事件、自然災害等

学校コミュニティの混乱をもたらす要因	構成員の死・喪失	構成員の強い恐怖感	構成員の自責感	外部からの責任追及
学生が衝撃的な事件で被害	○	△	△	
学生が自然災害の被害	○	○		
学校全体が自然災害の被害	○	○		

(福岡県臨床臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版)

学生による殺傷事件

学校コミュニティの混乱をもたらす要因	構成員の死・喪失	構成員の強い恐怖感	構成員の自責感	外部からの責任追及
被害者が学校関係者	○	○	○	○
被害者が学校関係者以外		△	○	○

(福岡県臨床臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版)

教職員の不祥事の発覚

学校コミュニティの混乱をもたらす要因	構成員の死・喪失	構成員の強い恐怖感	構成員の自責感	外部からの責任追及
暴力、わいせつ行為	○		○	○
被害者が学生	○	○	○	○

(福岡県臨床臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版)

教職員の突然死

学校コミュニティの混乱をもたらす要因	構成員の死・喪失	構成員の強い恐怖感	構成員の自責感	外部からの責任追及
教職員の突然死	○			
教職員の自殺	○		○	
自殺現場の目撃	○	○	○	

(福岡県臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版)

個人レベルの反応

感情面の反応1

- 恐怖体験と喪失体験は異なった体験
- ショック: 何がなんだか分からない。頭が真っ白
- 無感動: 何も感じない。現実感がない。映画の中の出来事のように感じる
- 恐怖: 怖くてたまらない
- 不安: また同じような出来事が起こるのではないか
- 悲しみ: 大切なものや人をなくしたことによる悲しみ

感情面の反応2

- 怒り: 自分の身近にこのようなことが起こったことへの怒り。このようなことを起こした、また妨げなかった他者への怒り
- 無力感: 自分が何もできなかったこと、何もできないことへの無力感。何をしても無駄だという感じ
- 自責感: 自分のせいでこのような事態に陥ったのではないかという自責感
- 不信感: 人が信じられない、世の中が信じられないといった不信感

身体的な反応

- 不安・恐怖に伴う身体症状: 動悸、発汗、口渇、過呼吸、手の震えなど
- 睡眠障害: 寝付きの悪さ、睡眠の浅さ、悪夢、早朝覚醒など
- 食欲不振
- 胃腸症状: 吐き気や嘔吐、下痢、腹痛など
- 筋緊張による痛み: 肩こり、背中中の痛み、腰痛、筋緊張性の頭痛など
- 疲労感

認知面の反応

- 記憶の障害: 覚えられない、すぐ忘れてしまう、いつのことだかわからなくなる、など
- 集中力の障害
- 思考能力の低下: 筋道立てて考えることができない
- 決断力の低下
- 判断力の低下
- 問題解決能力の低下: 計画的にものごとに取り組み解決するという問題解決能力の低下

行動面の反応1

- 口数の変化: 口数が減る、多弁になる
- 活動レベルの変化: 活動レベルの低下、動きが悪くなる、過活動になる、休まずに動きすぎる、落ち着きなく動き回る
- ミスの増加: 忘れ物をする、ものを落としたり壊したりする、ものにぶつかる、など
- 嗜好品の増加: アルコール・たばこ等の増加、過食
- ゆとりを失う: 少しのことでもかっとなる、小さな間違いを容認できない、など

行動面の反応2

- みだしなみの変化: 入浴・着替え・整容などの身だしなみに気を配らなくなる、だらしなくなる
- 依存行動の変化: 過度に依存的になる(例: 一つ一つ他者に保障を求める、判断をゆだねるなど)、他者の援助や助言を拒否し独断的に行動する、など

組織レベルの反応

人間関係の対立

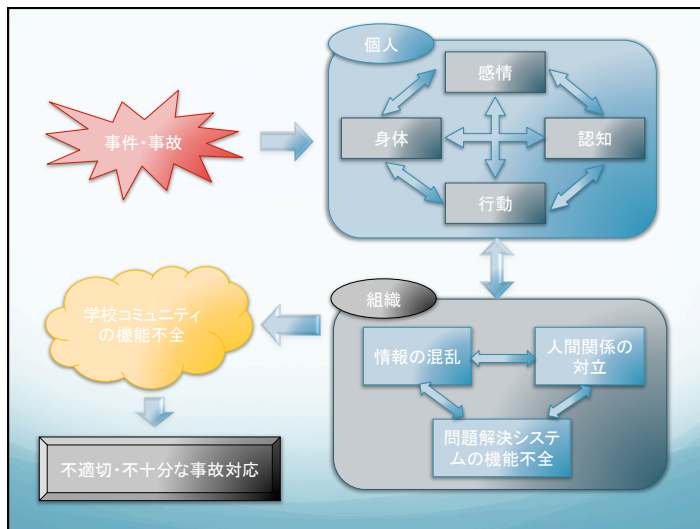
- 自分と異なった反応をしている他者を受け入れられない
- 事件・事故の責任を他者に転嫁

情報の混乱

- 情報伝達ルートでの混乱
- 構成員の混乱による間違った情報の伝搬

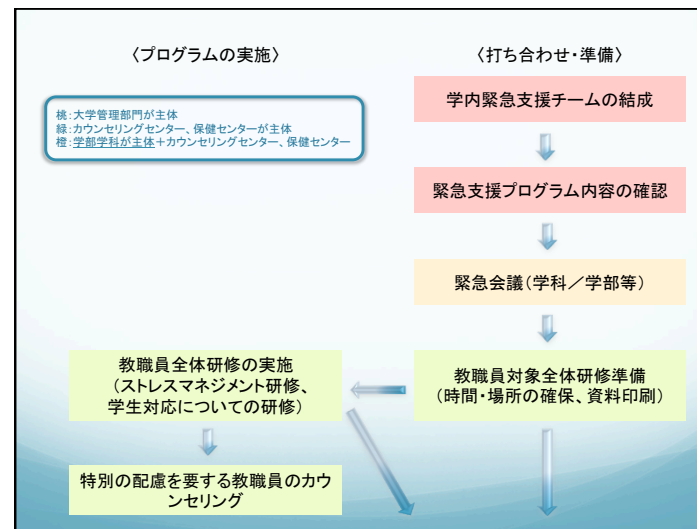
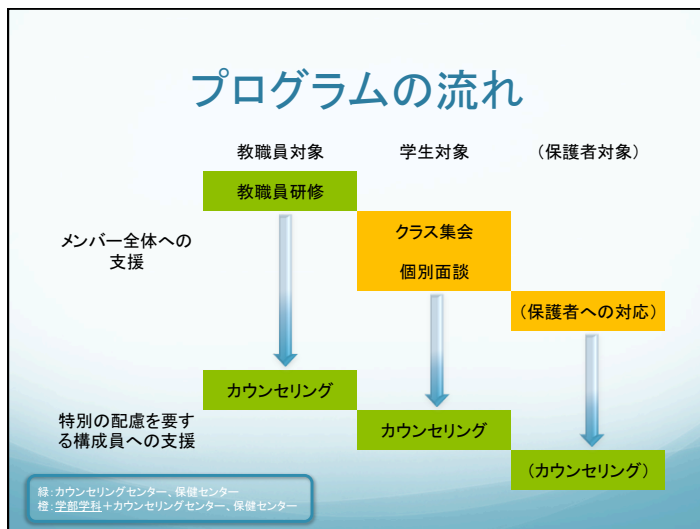
問題解決システムの機能不全

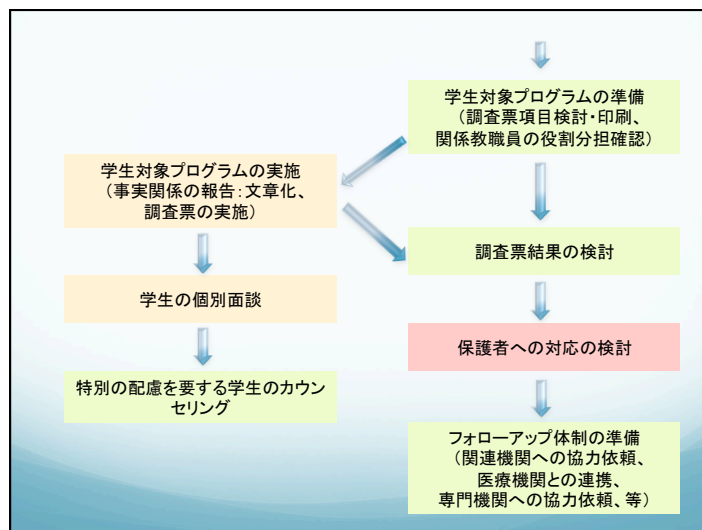
- 緊急事態では、即時の判断と決定が求められ、既存のシステムでは対処できない



緊急支援プログラム

- こころの傷の応急処置
- 一次被害の二次予防機能
 - 反応が烈しく、長期化／重篤化する可能性の高いハイリスクの構成員を発見：スクリーニング
 - 専門的、長期的なケアにつなぐ
- 二次被害の一次予防機能
 - 構成員が、その後の対応を巡って互いに非難・攻撃しあうことによる傷つきの防止
 - 特定の個人への誹謗・中傷、無責任な噂による二次被害の防止
 - 不適切・不十分な事後対応による二次被害の防止





課題として考えること

- どの部署が統括し、指示を出すのか
- サークル活動等で問題が生じているときには、どのように関わることができるのか

引用文献

- 福岡県臨床心理士会(編) 2005 学校コミュニティへの緊急支援の手引き 金剛出版